



お互いを思いやりながら、よりよい未来のために  
写真は、コロナ感染症対策を講じる  
公益大カフェテリアの様子です。  
さまざまな社会状況に対応しながらも、  
公益大生らしさを忘れず、夢を実現しようと  
充実した日々を過ごす学生たちの姿にホッとします。  
難しい対応が続いていますが、  
春は確実に近づいています。



## 公益大へようこそー新任教員あいさつ

- 02\_東江 日出郎 准教授 (国際教養コース)
- 03\_門松 秀樹 准教授 (政策コース)
- 灰谷 和代 准教授 (地域福祉コース)

## 教育活動

- 04\_酒田市地域IT人材等育成委託事業  
令和2年度社会福祉士実習報告会
- 05\_課題挑戦型オンラインインターシップ 報告会  
ヨーク大学(アイルランド)リモート留学

## 学生活動

- 06\_公翔祭/詐欺被害防止で表彰
- 07\_フードパントリー活動/プロ野球選手誕生!

## 社会連携活動

- 08\_地域共創センター

## 大学院・キャリア開発センター

- 10\_大学院 (公益学研究科)
- 11\_キャリア開発センター
- 12\_Topic! & 編集後記



# Welcome

## ようこそ東北公益文科大学へ 新しく着任された先生方をご紹介します

令和2(2020)年度は、4月より門松秀樹准教授(政策コース)、灰谷和代准教授(地域福祉コース)が、また9月より東江日出郎准教授(国際教養コース)が着任されました。現在、専任教員42名(特任教員含む)で、教育研究活動を行っています。今回は、新しく着任された3名の先生方から、着任のごあいさつと、皆さまへのメッセージをいただきました。



### 門松 秀樹 准教授(政策コース)

専門：日本政治論、日本政治史

私は、2020年4月1日付で本学政策コースに着任いたしました。専攻領域は日本政治論と日本政治史で、本学では、政治学、民法Ⅱ、日本史a・bなどを担当しております。

私に関心を寄せているのは政治と行政の関係であり、政治変動が行政組織・機構に及ぼす影響を与えるのかというテーマで研究に取り組んでいます。中でも、明治維新を事例として、前政権における「官僚」であった江戸幕府の幕臣と新政権である明治政府との関係について、実証的な検証を試みてきました。薩摩・長州が主役と思われがちな明治維新ですが、維新直後に政府の行政を支えたのは幕臣たちで、実は、政治変動に対する行政の連続性という特徴を見て取ることができます。

歴史を主な研究領域の一つとしているので、「歴史を学ぶこと」について簡単に考えを述べたいと思います。まず、歴史といえば「暗記科目」という印象を持つ方が多いと思いますが、これは誤りです。歴史は、ある歴史的事実をめぐる「なぜ」を、自分なりの推論と史料という証拠を基に解明していくという、いわば推理小説を読み解くような、きわめて多くの知的作業を必要とします。私は、「暗記科目」ではない考える歴史を通じて、歴史を学ぶ楽しさを学生の皆さんに知ってもらえるようにしたいと考えています。本学の教育・研究活動に微力ながら全力を尽くして取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



### 東江 日出郎 准教授(国際教養コース)

専門：開発政治学

初めまして、東江日出郎です。きっと漢字を正確に読めない方がほとんどだと思いますので、もう1度、「あがりえひでお」です。どうぞ、お見知りおきをお願い申し上げます。

私は本学で、国際協力論を担当させていただきます。国際協力論(開発学)は、開発経済学、開発政治学、開発社会学、教育学、保健・衛生学等、多分野からなっておりますが、私自身は、開発政治学を研究して参りました。途上国の経済・社会的発展や環境の保全には、SDGsの16番目の目標にもありますように、国家、地方レベルでのグッド・ガバナンスが重要になります。また、それを支えるのは民主的な諸制度とその理念に基づいた政治です。私は、この分野で途上国、特にフィリピンの地方で、健全な経済・社会的発展に資する政治や行政の在り方を、フィールド・ワークでの聞き取り調査に基づいて研究して参りました。その成果は、『フィリピンにおける民主的中央政治権力誕生のダイナミクス』(耕文社)として出版させて頂いております。このような研究をして参りましたので、これまでの教育経験でも、主に途上国の開発や政治に関連する科目を担当させて頂いております。

本学で担当させて頂く国際協力論では、日本の学生には想像し難い途上国の様々な状況を、私のフィールド・ワークの経験を活かして、より学生たちにわかりやすく伝え、世界の広さと多様さ、また、望ましい開発の在り方について伝えていければ、と考えております。



### 灰谷 和代 准教授(地域福祉コース)

専門：子ども家庭福祉、ソーシャルワーク

2020年4月から東北公益文科大学に赴任しました。専門は、子ども家庭福祉とソーシャルワークです。特に、保育・子育て支援や子どもの居場所づくり、児童虐待・DV相談の対応を中心に複数の地域での実践や研究を進めてきました。大阪では、保育所保育士をはじめ、市の保健センターや地域の子育て支援に携わりました。静岡では、行政相談窓口(家庭児童相談室)で、子育て相談、児童虐待やDV相談等の対応をしていました。その後、保育者養成の専門学校教員を経て、昨年度までは、三重にある皇學館大学で現在と同じく、社会福祉士養成の児童福祉分野の科目やソーシャルワーク演習・実習等の科目を担当していました。三重では、学生による地域活動(世代間交流カフェ)をサポートしたり、学生と共に「子ども食堂」のモデル開催や地域住民との座談会を開催したりして、学生と共に地域に出て活動していました。学生たちと作り上げた「子どもと家庭の応援団(地域ネットワーク)」は現在も小さいながら稼働中です。近いうちに、山形県の学生と三重県の学生との交流を企画したいと思っています。また、2012年頃から、保育現場での児童虐待対応(虐待の疑いの対応や虐待予防の支援を含む)の研究を進めてきました。現在は、保育現場と市区町村との連携強化を中心に、保育現場や行政担当課の現場職員の方々と共に研究を進めています。今年度はコロナウイルス感染症の影響もあり、まだ十分に動けていませんが、少しずつ山形・庄内のことを知っていききたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

教員紹介は  
東北公益文科大学  
公式HPから  
ご覧いただけます。



[https://www.koeki-u.ac.jp/about\\_us/kyouin/teaching\\_staff.html](https://www.koeki-u.ac.jp/about_us/kyouin/teaching_staff.html)



#### ■最終講義 (FORUM21) 開催のご案内

令和3年2月11日(木・祝)に、令和2年度末で退職を迎える、伊藤真知子教授(観光・まちづくりコース)と遠山茂樹教授(国際教養コース)の最終講義を行います。当日は、Zoomによるオンライン受講も可能です。

● 遠山茂樹教授最終講義 内容「ロビン・フッド伝説の起源とイギリス中世の森」  
日時：令和3年2月11日(木・祝) 10:30~12:00 (開場10:00)

● 伊藤真知子教授最終講義 内容「わたしたちは今どこにいるのか—ジェンダーの視点から—」  
日時：令和3年2月11日(木・祝) 13:30~15:00 (開場13:00)

会場は、酒田市公益研修センターホール(本学酒田キャンパス内)です。  
詳しくは、p.12をご覧ください。



## メディア情報コース学生とIT関連企業の皆さんが交流しました



本学では今年度より「酒田市地域IT人材等育成委託事業」の取り組みを進めており、酒田市の発展に繋がる様々な活動を展開しています。事業名のとおり、地元で活躍するIT人材の育成が活動の主軸となりますが、地元で働くことを推進するのであれば、学生には酒田で働くことの意義を知ってもらう機会が、企業側には学生の姿や活動の様子を知ってもらう機会が必要です。そうした機会を創出する試みを今年度初めて開催しました。それが11月24日に開催された「公益大メディア情報コース学生と市内IT関連企業等との交流事業」です。

当日は社会人の方に働くことの意義を酒田の魅力を変えた話題で伺ったあと、学生代表グループ2組が大学での情報処理技術の学びを生かしたプレゼンテーションを行ないました。

### ■第1部(講話)

- ・アビッツ株式会社 代表取締役社長 梅津和史氏
- ・酒田エス・エー・エス株式会社 水越俊一氏
- ・株式会社日情システムソリューションズ 公益大卒業生の皆様

- ・酒田市情報企画課・デジタル変革戦略室 本間義紀氏

### ■第2部(プレゼンテーション)

- ・令和元年度基礎プログラミングコンテスト決勝進出チーム(ほぼ秋・冬生まれ)
- ・令和2年度課題挑戦型インターンシップ(チームF)

第1部では、話者自身の学生時代から現在に至るまでの経験をふまえた大きな世界で学んだこと、そしてそこで身に付けた高度な技術によって地元に戻っても活躍できることなどが示され、学生達は大きな刺激を受けました。

第2部では、代表学生達が構築した情報システムと情報サービスの提案プレゼンテーションに「本気モード」のコメントが寄せられ、学生達も社会の厳しさの一面を見ると同時に、自分達の学びが社会に繋がることを実感しているようでした。

今後もこのような活動を通して地域との繋がりを高めていきたいと思っております。



## 令和2年度社会福祉士実習報告会

### 現地実習とオンライン実習 異なる形態だからこそ得た学びも報告

12月5日(土)、本学社会福祉士養成課程では、社会福祉士実習報告会が初のオンラインで開催され、夏季休暇中に実習を行った3、4年生39名のほか、各実習先の実習指導者様、在学生など約80名がオンラインから参加しました。

今年度の実習は新型コロナウイルスの影響もあり、3年生は完全オンライン実習、4年生は現地実習とオンライン実習と、例年とは異なる形態での実習となりました。コロナ禍において、本学実習生をお受けいただきました事業所様、機関様には心より深く感謝申し上げます。

学生は、実習を通じて得た課題をふりかえり、社会福祉士を目指すことへの自覚と成長が芽生えた報告会となりました。最後に、報告会で学生代表挨拶を務めました、佐藤萌さん(4年)の挨拶文を掲載させていただきます。



本日は実習先の指導者の皆様、並びに関係者の皆様、お忙しい中私たちの実習報告会にご参加いただき、ありがとうございました。また、今年は新型コロナウイルスの影響もありましたが、現場での実習やオンラインでの実習を受け入れていただき、本当にありがとうございました。

私は現場での実習をさせていただいたのですが、今日の発表を聞いて現場やオンライン関係なく、利用者の方や指導者様から見聞きたり、そこで得た学びを実践してみることで新しい知識になったと感じました。その学びの中で、自分は社会に対して何を還元できるのか、また還元するためにどのような力を身につけなければならないのかということを考えてきっかけになりました。今回の実習での学びを無駄にせず、今後それぞれの道で自信を持って働いていくための糧にしたいと思います。

下級生の皆さんには、今後も大変な状況が続くと思いますが、自分が福祉の道を目指したきっかけをもう一度思い出して、日々の勉強や来年の配属実習に向けて頑張ってください。

改めて、本日はご参加いただき、ありがとうございました。

学生代表 4年 佐藤 萌

## 課題挑戦型 オンラインインターンシップ 報告会

本学では社会の要請に応え得る人材の育成を目指し、学生が企業や団体、官公庁において就業体験を行うインターンシップを実施し、多くの学生が取り組んできました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、現地派遣を行わない「課題挑戦型オンラインインターンシップ」にふりかえて実施しました。春学期は、行政や消防、販売や福祉などの企業・団体10機関様から提示された16の課題に88名が18チームに分かれて挑戦しました。10月6日(水)に、予選を勝ち抜いた6チームによる最終報告会が行われ、春学期履修者および秋学期にインターンシップ履修希望の学生約260名が参加しました。

各チームのプレゼンテーション後に来場者全員で行われた投票により、見事最優秀賞に選ばれたのは、「アフターコロナを見据えた旅行の仕組みづくり」に取り組んだチームF。コロナの影響でバスによる観光ツアーの利用がほとんどなくなってしまった状況を打破するアイデアとして、庄内地区オンライン観光ツアー「どさいても、庄内」(訳:どこにいても庄内)を提案しました。チームFの学生たちは実際に、デモホームページやツアー動画も作成し、来場者がイメージできる形で提案についてプレゼンしていたのが印象的でした。



他に、「観光客や『酒田ファン』を増やすにはどうしたら良いか」「住民の足を確保するための公共交通を維持していくには」「コロナ禍における飲食店インテリアのあり方の提案」「空き店舗の有効活用を考える」「地域に根差した企業になるためには」の課題に取り組んだチームの発表を行いました。

コロナの影響で通常のインターンシップにおける就業体験とは異なるプログラムでしたが、各機関様が業務を通じ直面する課題について、学生の立場で考える力を養うことができた貴重な経験になったようです。

課題を提供していただいた企業・団体の皆様、指導していただいた関係者の皆様、ありがとうございます。秋学期は、11機関様から18の課題に、173名が39チームに分かれ挑戦しています。



春学期に取り組んだ各18チームの成果報告を掲示しています。ぜひご覧ください



## Second Best Tomorrow

### どんな状況にあっても、世界とつながるチャレンジを コーク大学(アイルランド)との7週間のリモート留学

本学の国際教養コースでは在学中に、海外留学に取り組む、またはTOEICなどの英語・中国語の試験の一定以上のスコアを修得することを必須としています。本学では毎年50-60名の学生が、短期(1か月以内)、中期(3か月-6か月)、長期(6か月以上)の期間に留学のために海外に出ています。留学に関する財政的支援制度やクォーター制の導入など、留学を本学も全面的にバックアップし、「留学といえば公益大」と言われるようになってきました。

しかし2020年にはCOVID-19(新型コロナウイルス)が世界的に大流行し、海外留学が難しい情勢になりました。実際に2月まで欧州の大学などに行っていた学生たちが、途中で留学を断念し帰国を余儀なくされる状況となりました。

その中で10月に、本学と協定を結んでおり毎年夏季の短期留学や中期・長期留学で学生が行くアイルランドに所在するコーク大学より、リモート留学の話がありました。本学としても留学に行けない学生たちに留学の機会を与えると同時に、パンデミックが数年継続することを考え、積極的にリモート留学に取り組むことにしました。

今回のコーク大学でのリモート留学は、2020年11月

24日(火)~2021年2月2日(火)までの7週間に渡り、火曜日19:30~21:30、金曜日19:00~21:00に週2回ペースで合計30時間の講義となっています。写真は学生達が大学で受講している様子です。

語学力を向上させる最善は、海外に留学し受講することです。しかしながら、このパンデミックの状況下で最善ではなくても、次善を考えることは十分に可能です。幸いにして今世紀に入り、IT通信技術は長足の進歩を遂げています。コロナだから海外に行けない、と嘆くのではなく、その発達したIT技術を使って、次善であったとしても、いかに留学に代わるものを生み出すかが肝心です。「Second Best Tomorrow」、コロナ禍の最中であっても、より良い明日を作り出す。これはすべてに共通することだと信じています。





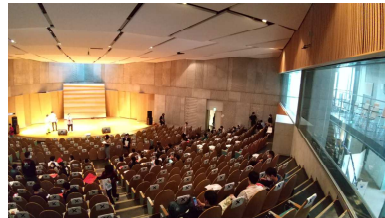
## コロナ感染症拡大防止対策を行いながら 公翔祭を無事に終えて

公翔祭実行委員長  
3年 土屋 航輝 さん

はじめに、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学祭の中止、オンラインでの開催が相次ぐ中、小規模ながらも開催し無事終えることができたことを大変嬉しく存じます。今年度の公翔祭は、例年通りにゲストをお招きしたり模擬店を出したりすることができず、実行委員一同、非常に残念な気持ちでした。

また、例年通りの開催を期待して下さっていた方々に申し訳ない気持ちもありました。だからこそ、私たちにないかできないか考えたときに、1年生に向けて交流の場を提供できないか考えたのです。そこで、学祭を主に1年生を対象としたウェルカムパーティーとして開催ということにいたしました。小規模での開催といっても新型コロナウイルス感染の可能性は否めません。感染を防止するために、公益ホール入場の際に、マスクの着用・アルコール消毒の徹底、非接触の体温計による検温を行いました。皆様にご協力いただいたおかげで、現在に至るまで無事に感染者が出ずに済んだことは感謝の念に堪えません。実行委員の企画としては、クイズ大会とビンゴ大会を行いました。クイズ大会、ビンゴ大会ともに大盛況であり、実行委員で協力し、準備した甲斐があったと感じることができました。

実行委員の皆さん、部活・サークル発表をしてくださった皆さん、教職員の方々、公翔祭に関わってくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。



## アルバイト先のコンビニエンスストアで 特殊詐欺被害を未然に防止 酒田警察署から感謝状をいただきました

地域福祉コース  
3年 中塚 麻緒 さん

アルバイト先のコンビニエンスストアで、特殊詐欺を未然に防ぐことができました。その日、レジ業務をしていると、お客様から「インターネットについて詳しいか」と問われました。詳しくわけを聞くと、詐欺にあっているのではないかと感じたので警察へと誘導しました。結果としてやはりそれは詐欺でした。未然に防ぐことができ安心しました。しかし同時に、私が詐欺被害を食い止めた実感はありませんでした。今回、表彰などを受けることになり驚いています。

今回の件でマスコミ等からも取材を受けました。どうして詐欺だとわかったのか、なぜ警察に誘導できたのか、と何度か聞かれました。私は、知識と傾聴力に理由があるのではないかと考えています。具体的には、コンビニエンスストアの店内に詐欺への注意表記や、大学のネットリテラシーの講義などで学んだことなどです。あまり専門的な知識ではないかもしれませんが、どういふ手口があるのか、どういふものが怪しいのかを知っておくことがまず大事だと思いました。

また、傾聴力についても大学の講義が役に立ちました。相手の言葉や態度、表情などに注意を向けながら対話するトレーニングをソーシャルワークの講義などで経験していました。お客様の言動に困惑や焦りがあることを感じとれたし、詳しく話を聞き出せたのだと思います。

今回の件で、そのお客様の対応を福祉を学んでいる私ができるということに意味があるのかなと思います。日常から福祉の心を持ち、また大学での学びを深めて、よりよい福祉の人材になりたいです。

ゼミ担当教員(日比 眞一 准教授)からひと言

中塚さんのニュースは、コロナ禍の中で明るいニュースでした。コロナ禍で大学生活もこれまでのようにはできないことも多いです。しかし、中塚さんのように、コロナ禍に負けずに学ぶ姿勢を示して下さることで、私たちも励まされます。ありがとうございます。

## フードパントリー活動を行って Liga食品ロス削減チーム

インタビュー  
3年 浦上 寧々 さん

東北公益文科大学の学生団体であるLigaは、3年前の設立以来、難民支援など様々な活動を続けています。2019年の11月からは食品ロスの削減に目を向けた「Liga食品ロス削減チーム」が発足し、賞味期限間近の食品を無償で提供する「フードパントリー」活動を行ってきました。現在は3年5名、2年3名、1年9名の17名で活動しています。

2019年11月の発足から準備を進めた結果、2020年の7月に初めてのフードパントリー活動を行うことができました。その後も活動を続け、11月29日には第4回活動を行いました。

特に直近の第4回活動では、同じ大学の学生団体であるmoreEと共に防災食品の炊き出し活動も行いました。また、酒南ジュニア柔道クラブの方による折り紙の配布や習字体験などのレクリエーションも開催することができました。このように地域の方と協力し、交流ができたのは大変良い経験でした。

第4回に参加したメンバーからは、「実際にフードパントリーの活動を行うことでよかった(3年 金野蓮)」 「毎回多くの人に参加してもらえて嬉しい。これからはさらに活動を進め、食品ロスをさらに減らしていきたい(1年 太田朋秀)」 というような感想が出ています。私自身も、これからも地域交流を進め、皆と活動していきたいと思っています。



これからの予定としては、今までフードパントリー活動を支援していただいていたト一屋様と共同で、2021年の1月末にフードドライブ(家庭の余った食材を持ち寄って集める作業)を開催することになりました。また、2021年2月にも、次のフードパントリー活動を予定しています。

今後の課題としては、本当に困っている人に情報を届ける方法、食糧確保の安定性などが挙げられています。解決策を模索中なので、ご支援やご提案がありましたらぜひご連絡ください。

Instagram : liga.foodloss

## 初のプロ野球選手、誕生！ 公益大での4年間を通じて 夢を実現させる

インタビュー  
野球部 横田 謙人 監督

10月26日(木)に行われたプロ野球ドラフト会議で、本学硬式野球部4年の赤上優人さん(投手)が埼玉西武ライオンズ様から育成選手選択会議第一位の指名をいただきました。

赤上さんを4年間に渡り指導してきた本学野球部の横田謙人監督からお話を伺いました。

入学当時はピッチャーではなく、ショートのポジションだった赤上さん。横田監督は「彼の特長として非常に強い肩を持っていたので、そこまでリスクなチェンジではありませんでしたが、きちんと技術指導をすれば、良い結果につながるビジョンはありました」。赤上さんの素直で誰よりも努力する性格が、ピッチャーとしての成長を加速させたようです。

監督が野球部に語りかけている言葉に「Believe in your unlimited possibilities」があります。「学生たちにはまず自分の可能性を信じてほしいですね。一人ひとりに自分の夢や目標があると思います。自分を信じて努力する4年間を過ごせば、その夢に近づくことができます」。

横田監督は、学生個人の目標とチームの目標をはっきりと持ち、そこに向かって自分で考えて修正していくように指導しているそう。これから社会に出ていく学生たちに「仲間や先輩方と切磋琢磨して、それぞれの目標を追求していくことで、夢をつかんでほしい」と言葉を贈ってくれました。野球に限らず、現状に課題を見つけ、解決策を自分で考えて実行していく力こそ公益大で培った精神と言えます。公益大での4年間を胸に、プロ野球という夢に挑戦する赤上さんの活躍に期待しています。





地域共創センターを通して、地域と「つなぐ」地域と「つながる」

## Webセミナー、オンライン展示で 新しい連携・学び合いのしくみを提案

地域共創センターは「地域連携部会」「産学連携部会」「防災・環境部会」「ブランディング部会」の4部会で活動しています。地域での活動を紹介します。

### FORUM21 地域に開かれた公開講座を随時開催し、学びあいと対話の場を提供しています

■「Webセミナーの開き方」  
三浦彰人特任助教による「Webセミナーの開き方」を7月31日に開催し、55名が参加しました。  
オンライン開催ということもあり、庄内地域以外にお住まいの方にもご参加いただきました。新型コロナウイルス感染拡大で対面でのセミナーが難しくなっている昨今、オンラインサービスを有効活用し、有意義なセミナーを開催するためのノウハウを学びました。  
参加者アンケートでは、「これからWEBセミナーを開催していきたいと思っていたのでとてもタイミングが良かった」「講座などをオンラインで開催する予定で、機材について詳しい職員もおらず試行錯誤していたところだったので、配信環境の整え方が特に勉強になりました」などの意見が寄せられました。

■幕臣と明治政府  
門松秀樹准教授による「幕臣と明治政府—行政的側面から明治維新を考える—」を11月24日に開催し、52名が参加しました。  
江戸幕府の幕臣（現在でいう官僚）が明治政府からも雇用されていたことや、高い教育を受けてきた江戸幕府の幕臣の子弟が明治政府の要職に就いていたことなどが紹介されました。また、徳川綱吉は一般的に「バカ殿」として認知されているが優秀な将軍であったこと、東京で盛んな「金魚市」や「あさがお市」は幕府からの給与だけでは食べていけない御家人の内職として発展したことなどの豆知識も紹介されました。  
参加者からは「明治維新もこのような視点から見るとおもしろい」「江戸～明治について新しい視点で知ることができた」などの意見が寄せられました。

■English Pronunciation— Why, What and How to Improve it  
フェック・エドモンド講師「English Pronunciation— Why, What and How to Improve it（教員のための英語発音講座）」を12月18日に実施し、小、中、高校の英語教員の方など9名にご参加いただきました。  
様々な英語話者がいる現代において、英語教育のなかで発音を教育する必要性から掘り下げ、最新の研究成果も交えながら、ネイティブ英語話者にとって聞き取りにくい日本のカタカナ英語の紹介や、様々な英語発音教育の手法が紹介されました。講座は参加者との対話形式で進められ、参加者の方からは「発音指導の上での工夫をたくさん教えていただき、授業の中で試してみたい」「英語を母国語とする人、そうでない人の両方の視点が大事であることがわかった」などの意見が寄せられました。

### ■学生団体がオンライン環境展へ出展

山形県などが主催し、毎年開催されている「やまがた環境展」について、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催となりました。本学からはAゾーン「環境を考える」に、本学学生メンバーで構成する「NPO法人 国際ボランティア学生協会 IVUSA 山形酒田支部」と「SCOP（スコープ／東北公益文科大学学生団体）」の活動が紹介されています。特設サイトは令和3年1月31日まで閲覧可能ですので、どうぞご覧ください。  
<https://www.yamagata-kankyouten.com/>

### ■PPP/PFI官民連携講座

山形県建設業協会酒田支部からの業務委託事業として「PPP/PFI 官民連携講座～地方創生に向けたPPP/PFI参画スキームを考える～」を開催しました。  
第1回目は、「地元資本による官民連携事業の可能性」について、酒田市役所から講師を招き、講演とパネルディスカッションを行いました。第2回目は、飛鳥建設（株）様から建設業にとっての事業参入の事例紹介と、（株）日本政策投資銀行様より金融機関の役割についてお話をいただきました。地域の建設業者は地域にとって不可欠な存在であり、持続的に発展していくための方法を多角的に検討することが求められると総括しました。

### ■山形県立酒田光陵高校 一日大学体験

本学は2016年8月に、酒田光陵高校・酒田市との三者による教育連携協定を締結しています。その一環として、10月9日（金）、酒田光陵高校情報科2年生全員が参加しての「東北公益文科大学特別オープンキャンパス～まるっと一日公益大学生体験～」を実施しました。  
はじめに、三木潤一学部長が本学の概要やカリキュラムの特長のほか、メディア情報コースの学びなどについて説明しました。その後は大学見学を行い、教室や図書館など、キャンパス内を見てまわりました。次に3グループに分かれて各自が選んだ模擬講義を受講。模擬講義は、メディア情報コースの教員が、高校生向けのトピックを提供しました。カフェテリアでのランチ体験の後、午後3グループに分かれ、午前中とは違う模擬講義を聴講。高校生たちは真剣なまなざしで講義を受講していました。

- 模擬講義タイトル
- ・広瀬雄二 准教授『クイズでGO』  
概要：地図とGPSを組み合わせたアウトドアクイズゲームを作成します
  - ・西村まどか 准教授『宇宙の果てって何だろう?』  
概要：宇宙の果てについて現代的なトピックを学びます
  - ・山本裕樹 准教授『系外惑星を探してみよう』  
概要：インターネット望遠鏡を使って太陽系外の恒星を回る惑星(系外惑星)を探します
  - ・三浦彰人 特任助教『情報セキュリティと社会』  
概要：日常生活の中に潜む情報セキュリティ上のリスクとその対策について知ろう
  - ・唐栄 講師『モーションキャプチャ入門』  
概要：モーションキャプチャ装置を用いた人間の動きを研究します

### ■地域防災・減災ワークショップ—酒田市宮野浦地区の防災・避難のあり方を考える

今年度から地域共創センターでは「防災・環境部会」を設置し、大学周辺地区の防災減災に向けた取り組みをスタートしました。そのキックオフイベントとして、10月15日には、水田敏彦氏（秋田大学 地方創生センター 地域協働・防災部門教授）、鎌滝孝信氏（岡山理科大学 理学部教授、ZOOMを用いたリモート講義）を講師にお迎えし、「防災ワークショップ」を実施。当日は、宮野浦地区の住民、酒田市職員、公益大の教職員とプロジェクト型応用演習として本テーマに取り組む学生の計43名が参加しました（コーディネーターは、本学教授の呉尚浩と澤邊みさ子）。  
ワークショップでは、水田教授からは「1894年庄内地震を探る—酒田市周辺の災害の歴史を知り地域の防災を考える」と題し、最近の防災に関する話題、防災・減災の基礎知識、「庄内大地震実見誌」などの史料から被害の状況を紐解き、その経験を今後活かすためのお話をしていただきました。鎌滝教授からは「過去に日本海で発生してきた津波とこれからの地域防災活動を考える」をテーマに、秋田・山形県沿岸における地震・災害の歴史、津波堆積物を手がかりにした巨大津波の履歴や影響範囲に関する研究、地域で取り組めることとして秋田市を事例に防災マップづくりやその活用の仕方などについて紹介いただきました。そして、住民の方からは、地域における防災の取り組みの現状や課題、新潟地震の際の液状化や最上川の渡し船の乗船中における津波からの避難の様子などの貴重なご経験を共有していただきました。このワークショップをきっかけとして、今後も学習会、ワークショップなどを積み重ね、大学と地域の共創による防災・減災地域づくりの動きを活性化させていきたいと願っています。



①② FORUM21「Webセミナーの開き方」（三浦彰人特任助教）③④ 幕臣と明治政府「幕臣と明治政府—行政的側面から明治維新を考える—」（門松秀樹准教授）⑤⑥ 「English Pronunciation— Why, What and How to Improve it（教員のための英語発音講座）」（フェック・エドモンド講師）⑦ PPP/PFI官民連携講座⑧⑨ 山形県立酒田光陵高校一日大学体験⑩ 地域防災・減災ワークショップ—酒田市宮野浦地区の防災・避難のあり方を考える



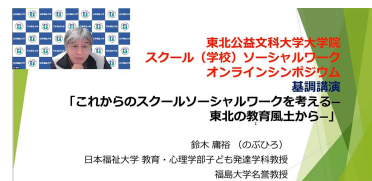
## より深い「公益」の学びの場を地域とともに 大学院（公益学研究科）

東北公益文科大学大学院公益学研究科では、「公益」の学びを深めながら、現在の社会変革期にこそ求められる学際的な研究教育を進めています。

### スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程を展開しています

平成30年4月に本学大学院修士課程に設置されたスクール（学校）ソーシャルワーク（SSW）教育課程では、「チーム学校」の一員として教職員と協働しながら、子どもと家庭、学校を支える社会福祉の専門職である、スクールソーシャルワーカー（SSWr）を養成しています。

令和2年12月には「これからのスクールソーシャルワークを考える」をテーマに、5回目にして初めてオンライン形式でシンポジウムを開催しました。庄内地域で中学校教員や教育相談専門員として働く本学院生が、現場での気づきや課題について報告を行い、SSW分野の第一人者の方より、東北の教育風土に基づいた山形県ならではのSSW事業の課題や可能性についてお話いただきました。北海道や岩手県、愛知県など遠方の教育関係者や学生にも多数参加いただき、オンラインならではのシンポジウムとなりました。



### 特別講座「SDGsで考えるこれからの社会と公益」を開催しました

本学大学院では「SDGs（持続可能な開発目標）とは何か」を具体例を通して学ぶ市民講座として、特別講座「SDGsで考えるこれからの社会と公益」（全4回）を開催しました。当日は、各回ゲストスピーカーをお招きし、会場とオンラインのハイブリッド形式で行いました。

- 第1回10月19日（月）「山形県を舞台にしたSDGs活動」（リコージャパン株式会社）
- 第2回11月11日（水）「SDGs時代のCSR経営」（SOMPOホールディングス株式会社）
- 第3回12月2日（水）「女性活躍とSDGs」（KPMGあずさサステナビリティ株式会社）
- 第4回12月14日（月）「SDGs未来都市 鶴岡」（鶴岡市企画部政策企画課）

SDGsをめぐる企業のさまざまな取り組みや、コロナ禍において発生した女性活躍の問題点、「SDGs未来都市」に採択された鶴岡市の取り組みなど、幅広い話題について考える機会となりました。令和3年度にも、地域の皆様を対象に、SDGsを軸としたプログラムを開講する予定です。



### 令和2年度春学期修了式・秋学期入学式を挙行了しました

大学院修士課程には、「公共経営」「国際ビジネス」「地域共創・ソーシャルワーク」「情報科学」の4つの「研究領域」があります。このうち「国際ビジネス」研究領域には、平成27年度から5年間、山形県寄附講座として開設された「アジアビジネス人材養成講座」の科目も含まれています。

この「アジアビジネス人材養成講座」で平成30年度秋学期に入学した大学院生の修了式を、令和2年9月12日（土）に行いました。修了式では、学位記の授与、学長・研究科長の祝辞のほか、オンラインによる出席者の方々からもメッセージを賜りました。

また、令和2年度秋学期の入学式を、令和2年9月19日（土）に行いました。入学式では、入学生が「自分にとっての公益とは何か、自分が公益のためにできることは何であるか、ということを考えていきたい」との抱負を述べました。

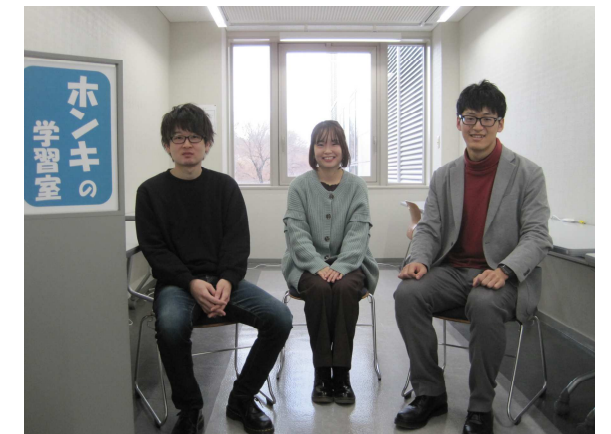


学生の希望を応援します！

## キャリア開発センター

キャリア開発センターでは、学生の希望する進路実現に向け、1年次から段階的かつ継続的な支援を行っています。近年の就職状況の特徴は、公務員採用試験合格件数が伸びていることです。これまでの公務員採用試験の合格件数は年間平均14件程度に対し、昨年度（令和元年）は30件、今年度（令和2年）は28件（11月末現在）となっています。今年度の合格者数22名は開学以来最多です。

公務員をめざす学生への支援として、就職筆記試験講座（通称：公務員講座）を開講しています。大手専門校のプロ講師による講義を大学で受講し、筆記試験の対策に取り組みます。また、キャリア開発センター職員が親身に相談に乗り、本番さながらの面接練習を行っています。これらのサポートを通じて、多くの学生が公務員になる夢を叶えています。



## 自信を持って社会へ羽ばたけ 合格した学生の声をご紹介します

### 心が折れそうだったときも、支えてくれた皆さんに感謝

白幡 幸大 さん（国家公務員一般職合格）



私が公務員を目指したきっかけは、公共サービスを提供し、人々の役に立ちたいと思ったからです。キャリア開発センターでは、面接・就職活動に対する考え方を教えていただいたり、不安で心が折れそうだった時も、メンタル面も支えていただきました。温かく的確にサポートしていただいたおかげで最後まで就職活動ができました。キャリア開発センターを利用してよかったと思います。私は、就職活動において家族、キャリア開発センターの皆様、先生方、友人などたくさんの方に支えていただきました。たくさんの方に支えていただいたことを忘れずに皆様の役に立てよう一生懸命頑張りたいと思います。

### 公益大での学びを活かして住民の視点での「まちづくり」を

高橋 治輝 さん（地方公務員行政職合格）



私は本学で地域資源を生かした活動、また酒田市の魅力をPRする活動に携わりました。これらの経験から、主に観光産業やグリーン・ツーリズムを行政の立場で取り組みたいと考え、公務員を目指しました。就職活動の際、キャリア開発センターには大変お世話になりました。公務員の勉強法から面接練習まで親身に相談・対応をしていただきました。各人に合った手法やアドバイスをいただいたことで実際に合格をすることができました。今後は公務員の一員として、住民の視点に立ち、住民がより暮らしやすいと感じる「まちづくり」を行っていきたいと思います。少しでも社会に貢献できるよう努めてまいります。

### キャリア開発センターは不安を自信に変えられる場所

辻 明日香 さん（警察官合格）



小学生の時に警察密着番組を見て、正義感に満ち溢れ、忍耐強く物事に向かう警察官の姿に憧れを抱きました。その中でも、男性社会といわれる警察組織の中で働く女性は一段と存在感があり、誇りを持って働ける仕事だと感じました。キャリア開発センターでは、勉強の進め方や、論文の添削、面接練習、相談など様々な面でサポートをしていただきました。特に、最大の不安要素だった面接は何度も何度も練習し、自信を持って本番を迎えることができました。私にとってキャリア開発センターは、不安を自信に変えられる場所でした。将来は、犯罪弱者をはじめ、多くの人の被害者支援をし、生まれ育った地域の安心安全を守りたいです。



**遠山茂樹教授最終講義、伊藤眞知子教授最終講義（受講申込方法について）**

令和3年2月11日(木・祝) 会場：酒田市公益研修センターホール(公益ホール)

開学時より多くの学生の指導にご尽力いただいた、遠山茂樹教授と伊藤眞知子教授の最終講義について、申込み方法をお知らせします。内容詳細は本学HPへ。

**定員：来場100名、Zoomによるオンライン参加100名（無料）**  
**※要事前申し込み。定員に達し次第締め切ります。（申込期限：2月8日(日)）**  
**※新型コロナウイルス感染拡大状況により全面オンライン開催の可能性もあります。**  
**申し込み：申し込みフォームまたは電話・メールにて下記内容を添えてお申込みください。**①氏名 ②氏名よみがな ③メールアドレス ④参加方法(来場またはオンライン) ⑤住所(来場希望者のみ) ⑥電話番号



← 遠山教授 最終講義  
お申込みはこちら



← 伊藤教授 最終講義  
お申込みはこちら

（株）オードヴィ庄内様の純米酒「オードヴィヌーボー」

**本学学生が「雪若丸」使用の新酒ラベルをデザインしました!!**

2020年度産の山形のお米「雪若丸」を100%使用した（株）オードヴィ庄内様の純米酒「オードヴィヌーボー」。この度、本学の日本酒同好会「KOEKI日本酒同好会」（7名）が「オードヴィヌーボー」の新酒のラベルデザインを完成させました。

「雪若丸を使った日本酒は今回が初めて」と（株）オードヴィ庄内様。KOEKI日本酒同好会のメンバーは「ラベルでは雪若丸の特長である米の粒の大きさを表現し、背景は庄内平野の美しい四季と山、川をイメージして作りました」とのこと。日本酒の味わいととも、素敵なラベルで山形・庄内の魅力を伝えていきたいですね。



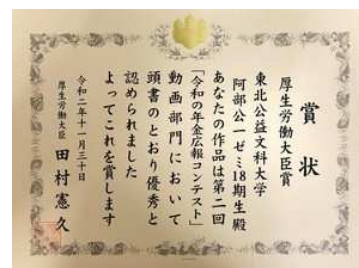
阿部公一ゼミ18期生（3年生）が作成

**「令和の年金広報コンテスト」で2年連続、厚生労働大臣賞（最優秀賞）を受賞!!**

ある経験から、年金教育用動画を自分たちで作成してみたいと強い思いを持つようになりました。その経験とは、厚生労働省年金局主催の「公的年金の分かりやすい情報発信モデル事業検討会」（2014年度）での出来事でした。年金教育用のアニメ動画を作成することになり、検討会では、脚本を誰がどのような内容で手掛けるのかが話題となりました。今の私でしたら、「書かせてください」と積極的に手を挙げますが、その当時はできませんでした。心残りでしたが、とにかく、検討会に参加したことにより、年金教育を通じて社会に対して発信すべきことが見えてきました。

このような経験から、2016年度に「国民年金加入行動啓発プロジェクト」（プロジェクト型応用演習科目）を開講し、学生と共に年金教育用動画の作成を手探りで始めました。その成果として、2019年度の「第一回令和の年金広報コンテスト」動画部門では、プロジェクト型応用演習履修者チームが厚生労働大臣賞を受賞しました。引き続き2020年度の第二回では、ゼミ生チームが厚生労働大臣賞を受賞するに至りました。高校生や中学生にもターゲットを広げ、繰り返し見てもらうために、デジタル年金紙芝居という手法を考え作品に取り入れました。

併せてポスター部門には、私個人のワークとして、アクティブ・ラーニングに導くための年金教育用の教材ポスターを作成し応募したところ、企業年金連合会理事長賞を受けました。今後、ポスター教材は循環型教育方法を通じて活用する計画です。循環型教育方法に関しては、日本年金学会40周年記念書籍（『人生100年時代の年金制度』法律文化社、2021年1月）をご覧ください。第7章に、「公的年金制度への共感を高める年金教育の在り方—若年層と社会を結ぶ役割を果たすために」という題目にて執筆しています。今後も、年金教育の発展に向けて、研究教育を進めていきたいと思っております。（文：阿部 公一 教授）



編集後記

2020年はCOVID-19に関する対応の中で、大学教育と学生活動の在り方が根本から問われた年でした。本号の記事を振り返ると、本学は地方の小規模大学の強みを最大限生かし、生き活きとした取り組みができたように思います。

広報誌『公益大ニュース』第5号 2021.1

〒998-8580 酒田市飯森山三丁目5番地の1  
TEL:0234-41-1111

東北公益文科大学  
Tohoku University of Community Service and Science

